

富医ニュース

No.577 令和1年12月1日

一般社団法人 富田林医師会
会長 宮田 重樹
〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38
TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858
E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

医師会あすか会 (令和元年度)

令和元年度医師会あすか会が11月16日(土)午後4時からスイスホテル南海大阪で羽曳野市医師会主催で開催されました。

羽曳野市医師会の大家尚先生の司会のもと、羽曳野市医師会会長調子和則先生の挨拶で始まりました。来賓を代表して最初に大阪府医師会会長茂松茂人先生の挨拶がありました。

今年度の研修会は二部構成で、第一部は大阪府医師会理事鎌方安行先生に基調講演として「大規模災害時の被災者医療と地区医師会に望まれる活動について」をお話いただきました。

第二部はシンポジウム形式で各医師会の代表が「災害時における医師会活動」というテーマで討論が行われました。各医師会で被災時の安否確認及び各方面との情報確保、応急救護所、避難所救護所の運営と人員確保、災害対策における行政との連携についての取り組みと問題点、課題等について各先生方から現在の災害時対応について説明していただきました。

18時からの懇親会では、再び羽曳野市医師会理事の大家尚先生の司会で、会長の調子和則先生のあいさつに始まり、中尾正俊大阪府医師会副会長の挨拶があり次いで高井康之副会長の乾杯の挨拶で食事が始まりました。その後、各医師会の参加者の自己紹介があり、次年度の当番である藤井寺市医師会会長藤本恭平先生のあいさつ、羽曳野市医師会副会長大畑和弘先生の閉会挨拶で散会となりました。

令和元年度 大阪府富田林保健所管内 難病医療療養ネットワーク会議全体研修会

災害に備え私たちができること
～高度医療を必要とする在宅難病患者を支える～

★日 時：令和元年12月21日(土) 14時～16時(13:30受付)

★場 所：近畿大学病院 大講堂

〔座長〕 近畿大学病院 総合医学教育研修センター

教授 三井 良之 氏

〔講師〕 静岡医療センター

副院長 溝口 功一 氏

調 整 日

11月分 12月6日(金)
PM3:00まで

12月分 1月8日(水)
PM3:00まで

12月の予定

2日(月)・会長副会長
連絡会議
6日(金)・調整日
12日(木)・学術講演会
13日(金)・理事会
16日(月)・訪問看護ステーション
運営委員会
20日(金)・広報調査委員会
23日(月)・広報調査委員会
(校正)
27日(金)・事務所仕事納め
28日(土)
1月 } ・休業
5日(日)
6日(月)・事務所仕事始め

TGM 結果

2019年11月10日(日)
聖丘カントリークラブ東→西コースで行
われました。参加者は17名で、結果は、
優勝
うえむらクリニック 植村匡志先生
バスグロも植村匡志先生でした。
次回は2020年5月17日(日)
聖丘カントリークラブの予定です。

令和元年度 11月定例理事会

日 時 令和元年11月8日(金)
13:30より
場 所 医師会 特別会議室

会長挨拶

報告事項

- 1) 「運動器検診結果報告書モデル様式」の作成について
- 2) 令和2年新年会について
令和2年1月25日帝国ホテル18時から
- 3) 地域包括ケア推進のための多職種連携研修会の開催について
- 4) 糖尿病性腎症重症化予防地区会について
- 5) 健康フォーラム
健康相談出務 仲谷理事、奥平先生

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 地区医療構想の推進に関する説明会
宮田会長出席
- 3) 大阪府医師会社会保険指導者講習会の出席
赤松理事出席
- 4) 令和元年度富田林市防災訓練 赤松理事出席

とんだばやし健康市民フォーラム —運動⇒健康⇒笑顔のまち富田林！—

平成22年に富田林医師会主催で富田林糖尿病市民フォーラムが開催されました。その時医師会員をはじめ多職種の方々が演劇で糖尿病とはなんて恐ろしい病気かということのを来場者に伝えるという画期的なフォーラムを当時の森口会長が企画されました。その流れを汲んだとんだばやし市民フォーラムは、医師会、富田林市をはじめ多くの多職種の方々と会議を重ねいろいろアイディアを基に企画運営しています。糖尿病から認知症にテーマを変えて毎年開催され、今年で10回を迎えることになりました。

そこで、11月23日に記念フォーラムとして健康と運動をテーマに体操オリンピックメダリストの池谷幸雄氏を迎え、すばるホールで開催



致しました。

その日は、11時から小ホールでえがお戦隊介護マンのステージショー、健康づくりに



つながる地域の活動PR、認知症に関する読書感想文の表彰、もの忘れチェックやロコモ度テスト、血糖測定、歯科検診などの健康チェックなど行いました。小ホールには200名以上の方が参加されました。

14時から大ホールの会場に約350名の方が来場されました。オープニングステージは津々山台幼稚園児による愛らしいダンス、そして富田林市長のごあいさつの後、「体と心の健康コミュニケーション」のタイトルで池谷氏のトークライブが始まりました。オリンピック体操の話、トップアスリートには自己管理ができないとなれないこと、体調管理には適切な食事、睡眠、運動が大事と力説されました。49才になられた池谷氏が壇上で見事な倒立を見せてくださり、年と共に体が固くなり、結果としてケガしやすく体が痛くなるが、毎日柔軟体操すれば若い体を維持できると教えてくださいました。その後、親子でできる親子体操(親が土台、機器役となって一緒に体操をする)を披露して下さり、あっという間に講演が終わりました。続いて“世代を超えた 運動と健康”のパネルディスカッションが行われました。司会は今城先生と高齢介護課の永岡さん、パネリストは、歯科医師会の宋先生、薬剤師会の大橋先生、内科医として森口先生、整形外科医として宮田が登壇しました。代表的な死因は運動で予防できること、テニスをしている人は長生きできること、内科疾患を抱えていても運動すればよくなることを森口先生が話されました。噛む力が弱いと力が入りにくいこと、ぶつかって歯が抜けても牛乳につけて歯科医に持って行けば治る可能性があること、予防にスポーツマウスガードが有効と宋先生が話されました。日光に当たる部位に湿布を貼ると光線過敏になりやすいこと、足が攣ったら芍薬甘草湯が有効であると大橋先生が話されました。寝たきりにならないためには、足腰が弱りかけたロコモの時期に歩くだけではだめでロコトレが有効ということで参加者とスクワットを行いました。ロコトレ教室を富田林市が医師会と協働で開催しているので参加して頂くよう永岡さんから案内がありました。子どもの体力が1980年代以降低下が続けていて、外遊

びの減少、ベビーカーを歩けるようになっても汎用していることなどが体力低下の原因で、結果として学校でこけてケガする子供が増えているという話をふまえ、森口先生が体を張って速く走るコツを伝授してくださいました。運動意欲を高め健康意識を高めるツールとして大阪府が作った“アスマイル”というアプリの紹介があり、最後に今城先生が運動することと継続することの重要性を強調されてパネルディスカッションが



終わりました。来年は、市政70周年を記念した健康フォーラムが開催される予定です。多くの先生方、市民の方が参加されるようお待ちしております。

(宮田重樹)



富田林医師会学術講演会

日 時: 令和元年12月12日(木) 14:00~15:00

会 場: 医師会 研修室

【座長】

医療法人明石整形外科クリニック 明石 健一 先生

「アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎の病態と治療」

【演者】 兵庫県医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
準教授 都築 健三 先生

鼻副鼻腔の主な機能は、呼吸機能と嗅覚機能です。外界の環境から身を守るために、鼻粘膜は気道フィルターの第一線として働きます。鼻汁で吸気の温度調節と加湿する上に異物を洗い流し、くしゃみで排泄し、鼻粘膜腫脹(鼻閉)で門前払います。これらは必要に応じた生体防御反応(広義の鼻炎)ですが、必要以上に反応が強く出現すると症状に悩まされる狭義の鼻炎となり、治療の対象となります。その代表がアレルギー性鼻炎です。その治療には、アレルゲン回避、薬物治療、免疫アレルゲン免疫療法、手術などがあります。薬物治療には、内服、点鼻、貼付など様々なdrug deliveryのアプローチから適切に選択します。もう一つの重要な鼻の機能である嗅覚の障害を引き起こす最も多い原因は副鼻腔炎です。経過から、4週以内に治癒する急性副鼻腔炎と3か月以上持続する慢性副鼻腔炎と定義され

ます。難治性の慢性副鼻腔炎である好酸球性副鼻腔炎は診断基準が報告され、2015年7月から厚生労働省の指定難病になりました。現在も好酸球性副鼻腔炎の患者数は増加してきています。病初期からの嗅覚障害、成人発症の重症喘息の合併など、OQLが著しく損なわれて、重症例も多いのが現状です。現在は副腎皮質ステロイドによる薬物治療と手術による治療が主体です。重症喘息に適応のある生物学的製剤の有効性も注目されています。本講演では、これらの疾患に焦点をあてて、当科の治療の取り組みも紹介致します。

本会は、生涯教育制度1単位が取得できます。(カリキュラムコード:39、79)

学校医部会研修会抄録

児童虐待の早期発見と発生予防における

教育・医療・保健・福祉機関連携

大阪府健康医療部保健医療室 地域保健課

参事 浅田 留美子 先生

★児童虐待とは、

1. 身体的虐待
2. ネグレクト
3. 性的虐待
4. 心理的虐待
5. 経済的虐待

がある。

児童虐待相談対応の状況は年々増えてきている。

★児童虐待への取り組みには、

◇発生予防 ◇早期発見・早期対応 ◇虐待を受けた子どもの保護 ◇虐待を受けた子どもの自立に向けた支援(心のケアを含む) ◇保護者への支援が必要で、切れ目のない支援が必要である。

児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所もしくは児童相談所または児童委員を介して、市町村、都道府県の設置する福祉事務所もしくは児童相談所に通告しなければならない。ただし、通告によって医療関係者が刑法上の守秘義務違反に問われることはない。

ネグレクトを疑う所見、外傷所見からの虐待と事故の鑑別、注目すべき養育者と子どもとの関係、子供についての異変・違和感、保護者についての異変・違和感、状況についての異変・違和感についてのまとめ。

★基本的な対応方針として、

児の安全確保を第一に考える

病院として組織的に虐待対応にあたる

関係者との連携を重視する
虐待予防にむけた活動も行う

誤った通告の扱いについては、現行法上では、「虐待の事実がないことを知りながら、敢えて通告した場合や、それに準ずる場合を除き、法的責任を問われることはない」と解釈されています。「通告については、児童虐待防止法の趣旨に基づくものであれば、それが結果として誤りであったとしても、そのことによって刑事上、民事上の責任を問われることは基本的にないと考えられる」

(福田 毅)



専門医より一言

頸部リンパ節腫脹について

富田林病院耳鼻咽喉科

部長 森 一功 先生

本講演では、頸部リンパ節腫脹の自験例を多数紹介し、その取扱いについての注意点を解説した。ここでは、そのうちの代表例を記すにとどめる。

1) 亜急性リンパ節炎(菊池病)

わが国に多く、白人には少ない。感冒様の症状で始まり、38℃以上の発熱を伴うことが多い。解熱前後に、頸部リンパ節の腫大をみる。20~30歳代の女性に多い。CRP上昇、白血球減少をみることが多い。数カ月以内に自然治癒するが、症状が重篤な際にはステロイドが著効する。頸部リンパ節が腫張して疼痛が強いのに、抗生剤が無効のときは本症を疑う。

3) メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患

リウマチ治療等でメトトレキサート(MTX)投与中にリンパ節腫大を認め、生検で悪性リンパ腫として診断される。びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫が最多で50%前後、ホジキンリンパ腫が20%前後である。MTXの投与中止により腫瘍の退縮がおこり、3割では寛解を得られる。寛解を得られても約半数は再燃する。MTXの長期投与は要注意である。

3) 結核性リンパ節炎

慢性に経過する多発性リンパ節腫脹で、周囲組織と癒着する傾向を示し、悪性リンパ腫や転移性癌と鑑別困難なことも少なくない。エリスポットは陽性だが、高齢者では多くで陽性となるので、無意味の場合が多い。喀痰検査で排菌の有無を確認する必要がある。いまだに、「絶滅疾患」ではなく、臨床で結構見られることを忘れてはならない。

4) IgG4関連疾患

- 7日(木)・調整日
- 8日(金)・理事会
- 13日(水)・救急災害医療委員会
- 14日(木)・学校医部会研修会
- 16日(土)・あすか会
- 18日(月)・訪問看護ステーション運営委員会
- 21日(木)・学術講演会
- 22日(金)・広報調査委員会
- 23日(祝)・とんだばやし健康市民フォーラム
- 26日(火)・休日診療委員会
- ・感染症対策委員会
- ・広報調査委員会(校正)

腫瘍や隆起性病変部において、IgG4陽性形質細胞の浸潤を認め、血清IgG4高値を特徴とする疾患。多彩な部位で様々な症状(主として、腫瘤による圧排症状や機能障害)を呈する疾患で、原因は不明。ステロイドで腫瘍や隆起性病変は消失する。本来、良性疾患であるが、悪性疾患と間違われ、手術などの治療をされてきた。IgG4関連疾患という「病気」があることを知っていることが大切。

頸部リンパ節腫脹の取扱いについて、注意点を以下にまとめる。

- 1) 一般的に、痛みを伴う場合は良性。悪性は痛くはない。
- 2) 腫脹が増悪するときは悪性を疑う。
- 3) sIL2-R値やPETは補助的診断方法であり、あまり「アテ」にならない。
- 4) 最終診断は生検による。

「痛くないリンパ節腫脹の経過観察は非常に危険である」ことを常に念頭に置きたい。

- 会員数(12月1日現在) 189名
- A会員 96名 B会員 92名 C会員 1名
- 入会 なし
- 退会 なし
- 異動 なし

広報調査委員会						
委員長	齊藤 謙介			副委員長	森井 秀樹	
委員	青山 賢治	天城 完二	植村 匡志			
	江村 俊也	奥野 敦史	尾多賀雅哉			
	遠山 佳樹	中村 元	藤岡 洋			
	山本 善哉	山村 友良				